

会 議 録

会議名	令和6年度 第1回那覇市生涯学習推進協議会
開催日時	令和6年6月5日(水) 午前10時 ～ 正午
出席者名	[那覇市生涯学習推進協議会委員] (会長)長濱 克実、山盛 淳子、翁長 有希、与儀 実彦、上原 啓渡 玉寄 文代、棚野 浩 (欠席)(副会長)柴田 聡史、島村 聡、松堂 美和子 [那覇市教育委員会説明者等] (生涯学習課)課長 松田信男、主幹 久場祐介、 主査 仲村美紀、主任主事 石垣真由美
議題	(1) 第2次那覇市生涯学習推進計画の評価(案)について (2) 第3次那覇市生涯学習推進計画策定について ①策定要領について ②進捗管理及び評価(案)について
配付資料	【事前送付】 ・(資料1) 第12期那覇市生涯学習推進協議会委員名簿 ・(資料2) 生涯学習・社会教育について 第11期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理【概要】 ・(資料3) 第2次那覇市生涯学習推進計画の概要について ・(資料4) 第2次那覇市生涯学習推進計画 進捗報告表 ・(資料5) 第2次那覇市生涯学習推進計画 内部評価一覧(案) ・(資料6) 第2次那覇市生涯学習推進計画の評価について(案) ・(資料7) 第3次那覇市生涯学習推進計画策定要領について ・(資料8) 第3次那覇市生涯学習推進計画(R7～R11年度)策定の基本方針及び体系 ・(資料9) 第3次那覇市生涯学習推進計画 策定スケジュール ・(資料10) 第3次那覇市生涯学習計画の進捗管理及び評価等について(案) ・第2次那覇市生涯学習推進計画(改訂版) ・那覇市生涯学習推進協議会規則
審議状況(経過、結論)以下のとおり。	

(1) 第2次那覇市生涯学習推進計画の評価(案)に関する質疑応答

○資料 6 の評価について、達成したものはもちろん問題ないわけなんですけども、停滞とかほぼ達成とかは今後第3次の計画につなげていくのでしょうか。

●この後、第三次の計画の策定において、事務局から説明させていただきますが、柱、方針、方策に係る事業を改めて、内容検討委員会で整理していきたいと考えております。コロナ禍を踏まえ、今後の生涯学習施策に、どういう事業が紐づいていくか整理する中で、第3次計画に残る指標については、課題として取り組んでいくところです。

○「ほぼ達成」「停滞」となっている指標については、第3次計画につなげていく方向で、今後また検討していくということですね。わかりました。

○資料 5 のまとめについて。指標 25。家庭教育の向上、中央公民館で 96.7% (実績値)、めざそう値 98 なんだけど、「停滞」となってる。これだけのパーセントで停滞？って私は思いました。もう 1 点は、地域子育て支援で、内容評価の文言を読みますと「外国籍の利用者も安心して」ってあるんですけども、最近、外国籍留学の皆さんが(那覇に)来てるので、家庭を持ったりしてて、その人たちにどんなふうな形で、お知らせをしているのかなあといったことを思いました。それから三つ目、(指標 27)。団体って、どんな団体なのかなということをお教えいただきたいと思います。

●25 の指標のめざそう値について。

指標によっては、めざそう値自体が高く設定しているため、実績値を見たら十分頑張ってるはずなのに、めざそう値が高いから達成できていないと結果になってしまう。だけど実際は 90% 超えているっていうような例が、ちょっと、あるのかと。実態に応じためざそう値の設定については、過去の振り返りのところで少し意見が出たところです。

第3次計画策定時の評価のあり方についても、今後どのようにするか、これから検討していくところで、参考にさせていただきたいと思います。

外国の方の周知に関しては、担当課に明確な確認はできていないのですが、基本周知に関しては、近隣の施設や、実際に来館された方を通じて行っていると聞いています。あと、那覇市の公式 LINE に生涯学習の講座が出るような仕組みになっているところです。その仕組みによって、以前よりは、手広く周知がなされているのかなというふうに思います。

外国の方とか、障害を持った方とか、いろんなものに辿りつかないような、マイノリティと言われてる方が、どういうふうに生涯学習の講座等にアクセスできるのかは、課の中でも課題感を持っているところです。

○家庭教育の 98% 逆に停滞という、質問に関しては？

●再度お伝えすると、そもそもめざそう値自体をちょっと高く設定してしまっていたため、実績値が 90% 超えていたとしても、「停滞」という結果になってしまいますので、今後の課題であるという回答をさせていただきたいと思います。

○指標 20 の「地域学校連携施設利用回数及び利用人数」、こちらは、(地域連携室が) 大変よく利用さ

れているところなんです、私たちの地域でもそうなんです。今回、WiFi が設置され、私は大変もう喜んでおります。これまでなかなかできてなかったのが、パソコンを持ち込んで、皆さんにいろんな情報が提供できるということで、これはもう本当に、うれしい限りで、ありがとうございました。ただ、鍵管理システム、こちらはまだ継続されているのでしょうか。私の地域にもぜひ欲しいなと思ってたんですけども、これってとても便利なんです。こういうのがあると本当に、地域全体がいつでも、連携室が使えるという状態だったので、今、これがなくなったために、教頭先生に大変ご迷惑かけているところなんですけども、私達の地域も週5、ほとんど地域連携して使われてます。夜も結構使われてるんですよ。

それから、4月にクーラーが壊れて、昨日も高齢者のダンスがあったんですが、施設のクーラーの整備なんか、早めに対応していただけないかというのを、皆さんから声があったので、今日ここでご報告させていただきます。これからだんだん暑くなって、大変なことになるので、これは私事ですけども、よろしくお願いします。

●ありがとうございます。

まず、地域学校連携施設、指標の20に係る市内の小中学校のうち、全部で32施設あります。

小学校は26、中学校が4。学校の敷地内に、地域の方がサークル的活動ができたり、放課後子ども教室の活動の場になっていたり、まちづくり協議会の活動拠点として開放している施設です。鍵管理予約システムというのは、従来、鍵の管理、受け付けについては、学校の教頭先生とか、PTAの事務の方がしてくださっていたんですが、夜の会合とかに対応すると、学校の先生方がそこまで残っておかないといけないとか、土日の利用とかも、先生方が工夫してくださっているという、学校の先生方の負担と、あと利用者の方々にとっても、利便性がなかなか（高いとは言えない）というところで、令和元年から施行して、令和3年度から、この鍵の管理と予約を、システムで、ウェブを使って行っていく取り組みを行っておりまして、今は市内に6施設（6校）ございます。

曙小学校については、モデル地区として、過去、システムを導入させていただいた経緯がございます。この鍵管理システムを導入することによって、かなり利用の利便性と、先生の負担が減ったというふうに伺って、曙小学校は施設面のハードルがあるので、今、関係各課と調整しながら、校長先生も意向も伺っているので、今後進めていきたいとしているところです。クーラーの修繕も早めに頑張ります。

●先ほどのご質問の回答として1個漏れていたのが、指標27「親の学び合いプログラム」がどういった団体さんがされているか、主に伺っているのは、公民館を会場として、地域の方とか、PTA等、学び合いプログラムを、県の方に申請して、受講しているというふうに聞いています。

内容としては、家庭教育が主で、直近では、その子どもの貧困世帯に対して、どのようなことができるかということで、講師を招いて実施したということも伺っております。

(2) 第3次那覇市生涯学習推進計画策定に関する質疑応答

○指標名と事業名は同じとらえ方でいいんですね。

（第2次計画の）資料には指標名とありますが、第3次計画の資料では事業名と書いてますけど、これは同じでしょうか。

●基本的には、一緒になるのかなと思うんですが、前回（第2次計画）は指標ということで、具体的に数値を意識してたものにはなると思うんですが、次期計画では、基本的には事業を出していただくことになるので、指標とイコールにもなるものもあれば、新しく事業名を書いてもらうことにもなるのかなと思います。

○今日審議しているのは、この計画づくりのステッププロセスを確認するってことですよ。

次に、具体的にこれから計画を作るときに、こういうものに取り組みますっていうのは、この資料 9 を見ると、市役所の方でいろいろ原案を考えてるってことですね。その具体的な取り組みの案に対して、私たちこの協議会は、何か意見ができるのか、関与できるのか、今後のちょっとそういうところを聞きたいと思います。

●推進協議会は、次が 10 月になりますので、できる限りこの今回の機会を通して、皆さんの視点などを第 3 次計画に盛り込む上で（ご意見）いただければなと思っております。

●少し補足させていただきますと、先ほど指標設定等について、もともと高い数値があるがゆえに、停滞となっているような指標があるとか、そういう評価に対する問題点であったり、或いは今回新たに盛り込む視点、そういったものについて各委員の皆様の日頃の活動の中から、見えてきてる課題とか、次期計画に反映させた方がいいんじゃないかといったご意見がございましたら、今日この場でお伺いしながら、今後の庁内での検討委員会の中で、そういった情報も共有しながら、次期計画における取り組みとか、事業、そういった設定にできる限り反映させていきたいというふうに考えておりますので、忌憚のないご意見いただけると幸いです。

○今、どこがやるべきかと悩んでるものがありましてですね。学校が今抱えてる保護者のいろんな問題が、高校、教育現場に上がってきて、それによって教員がメンタルやられていろんな問題起こってる。我々も教育関係ですから、常にそういう情報が入ってくる中で仕事してるんですけど、私立と違ってやっぱり公立はひずみがきついんですね。保護者の教育があるのかなと思ったんですよ。保護者の教育をしない限り、これは直らないって言い切る方もいっぱいいるんですね。高等学校の電話などは録音機能が全部入ってるんですね。こういうことが起こってる中で、じゃあ、この教育を誰がやるのかなと思うんですよ。そこが私わからないもんですから、我々は、18 歳以上の学生を扱ってますから、もちろん学生に対して、その結婚後も含めていろんな教育の中でできるんで、専門学校は。しかしいざそうなったときの教育には我々が中々関われないんですね。5 年後 10 年後の（卒業した）方々が、子どもが産まれて、そういう教育施設に預けていく中で、何かが起こると、子供の教育よりも学校に対してクレームがいくようになっていく。それを誰が教育するかという、それは何かこういうのできるのかなと思いながら、いつも日々疑問に思ってるんですよ。どこが提案すべきなのかなと。だから、こういうものがもしこの（計画の）中で入れられるものなのかなんか含めて、検討してもいいのかなと思いました。

●ありがとうございます。今のご意見に関しては、社会問題、社会課題という側面からのとらえ方ができるかなと。社会教育、生涯学習の持つ意義としまして、趣味的なもので個々人の生きがいとかやりがいの創出といった他に、学んだことを、その地域社会に対して還元していく。それによるその生きがい、個人の自己肯定感とか自己効力感の高揚、そういったものにもつなげていくという、生涯学習の機能的側面がございます。今のようなお話、家庭教育であったりとか、社会教育、そういったものの中で、一つの社会課題として、行政だけではなくて、地域の皆さん、当事者の皆さんが、その向き合っていく場の創出とか機会の創出の必要性にも通ずる話かなと。そういった観点から、今後の取り組みとして、その場の創出を含めた、そういった取り組み対応について、庁内でも共有させていただいて、また、今後の計画案として、またご提案させていただいて、ご意見等賜ればなというふうに思っております。

○今のところに関連して、自分も子育てしながら働いてるっていうこともあって、活動をさせてもらってる中で、おっしゃるように、今は小学校以上の保護者の教育ということもあったんですけど。生涯学習って、生まれてから死ぬまでみたいなのところの学びという中で、日本で抜け落ちてるのは、親としてどうするか。出産前に、親になるというところの学級はあるんですけど、ほんの 1 時間受けるかどうかぐらいで、出産後どう

するか、子育てで旦那さんと協力してとか、辛い時には、SOS 出すんだよ、くらいで。それを受けるか受けないかっていうのも、任意で。親になるときに、親としてのいろんな心構えとか社会常識とか、あり方みたいなところを学ぶ機会が、どのタイミングでも無いなあというふうに思っています。

私は仕事として学校支援に携わりながら、常々、キャリア教育とか、いろんな教育みたいなのをやっても、「でもこれって親じゃない？」とか、保護者が学校でどんなに教育しても、保護者じゃない？みたいなことが常々問題になってきてるところがずっとある。でも、もう小学校以上になって親を教育しようみたいなところってなかなか難しいはずなんです。なので、それを段階的に、どの段階からも親になるというようなところであったりとかも、市民教育みたいなところの一つにありながら、いろんな部署と、福祉とか、子ども政策とかそういう部署と連携をしていくというようなあり方も必要だなと常々感じていたりするので、今、個人的な思いも込めて、発言しておきます。

もう 1 点なんですが、学校教育との関連で、第 2 次計画の資料 5、柱 2 の方針 1 の②、校区まちづくり協議会設立校区数の数値に関して、これも数字的な読み方だと思うんですが、令和 6 年度のめざそう値が 26 で、実績値が 15 というところなんですが、これ「ほぼ達成」というふうには見にくいかなと思ってます。何で「ほぼ達成」という根拠が資料 6 に示されていて、中間値以上でめざそう値未満というのは、数値的にはそうなるんですが、中間値が 13 で、そもそも令和 6 年度のめざそう値が高すぎたかもしれないんですけど、数値的には、ちょっと何か感覚的にすごく違和感があるかなというふうに思うので、もしかしたら（第 3 次計画の）めざそう値の作り方みたいなところをちょっと考える必要があるのかなというのは感じました。

でも数値的な設定の仕方なのでいいとして、もし本当にまちづくり協議会を 26、設置する必要があるというふうに、それがまちづくりにとって効果的であって、それに 26 設置する必要があると思ってそこに設定しているとすると、内容の評価のところの、今後の展開とか達成しなかった理由が、個々人の職員のマンパワー不足と書いてあるんですね。これは多分、課の職員という意味ですかね。マンパワー不足であったとしたらそれを次に達成するために何か視察とか、そういうことではないだろうなというの思っていたりする。なので、そのあたりの分析をどうされるかっていうことと。あともう 1 個は、次期の内容にかかってくるのかなと思ってんですけど、なぜここ私がちょっと細かく見たかっていうと、キーワードにもありましたけどコミュニティスクールというのは次入ってくるかと思ってます。那覇市の場合は、今年度から本格的にコミュニティスクールを導入されていますが、先行して行われているまち協さんとの取り組みと、コミュニティスクールがどういう位置付けになって、学校を核としたコミュニティづくりをしていくのかっていうのが、それぞれの地域で混乱が起きていますし、計画策定してる教育委員会の方でも、いまだその解決というのはなかなか難しそうなイメージを受けています。なので、コミュニティスクールというキーワードが入ってくる上で「まち協」を、まだたくさん作っていく必要があるのか。まち協とコミュニティスクールを、をどう連携してやっていくのかっていうのは、事前に連携しての内容になっていくといいなというふうに感じてます。

●貴重なご意見ありがとうございます。

那覇市がまちづくりをしようというスタンスは変わらないんですけども、小学校を核とした地域づくりというのを市長も掲げております。

地域というのが小学校にあって、いろんな方、いろんな分野でいろんなカテゴリーがあって、それをうまく地域で皆が助け合い、そこで人々が暮らしやすいような形づくりを一つのキーとしてるんですけども、今ご意見があったように地域と学校が一体という形で、学校の子供たちの健やかな学びにつなげるための仕組みというのができ上がって、これがコミュニティスクールというものになっています。

これは、これまで学校の運営というのが、学校評議委員会とか、それから学校長を中心としていたものに、地域の方を入れて、その学校の運営を皆さんで共有して、その学校の運営に地域が入って、その学校の子どもたちや教育に携わってこういう形が仕組みとしてでき上がってきております。那覇市は、今年度、それを実践的に導入していこうというのがございます。

一方で、まちづくり協議会の方も私たちの役目は何なの、という。以前にスタートしていてその学校を中心とした、地域づくりをやろうとしてる中と、学校の教育、今取り組もうとしている地域学校協働活動というんですけども、その地域の方々と町の方々、いわゆる活動する方がかぶってしまうという部分があって、それはどういう役割分担なの、ということなのってのは、その部分が、情報の伝達とか、仕組みの共有がうまくできてないというところは、今後、私たちもまちづくり協議会の方あるいはまちづくり協働推進課の方と、意見を交わしながら、仕組みづくりの形を、棲み分けをするのか先ほどおっしゃられたように、まちづくり協議会を今後も全部作っていくのか。まちづくり協議会の方も、目標はあったんですけども、進捗が滞ってしまっていて、なかなか次のまちづくり協議会までの発足まで繋がらない、少し停滞的な今状況がございます。なので、まちづくり協働推進課としても次の打つ手を検討しているというお話もありますので、その次に打つ手に、生涯学習課が、コミュニティスクールとして続けている協働活動の分野をうまく活用するなり、融合できないか、といったところも、今後、私たちも検討していこうというふうに考えているところです。

○小学校を中心とした場合に、主導権握ってやっていくのは地域の方ですか。

なぜかという、教員とかは異動していきますよね。人事異動によって離れていくけど、地域がずっとそこにいますよね。そのあたりどこが主導権握ってるかちょっと気になったもんですから。

●学校運営協議会とコミュニティスクールの地域学校協働活動というものがあまして、どちらが主導権というよりも、どちらも同じ立場で、学校と、地域が同じ視点、立ち位置で、学校のかかわれることまた学校が地域にかかわれること、そういったことも含めて、学校の子供たち全体に関わる人達で、運営に携わって、いこうという形がコミュニティスクールの一つの形になっております。

○資料 7 はもう触れない要領なんですよね。もう決まってるのですね。

そこから関連で、2 の (3)。時代変化に対応可能な計画ってところで少し、それがどこに、次の策定の方策やあたりに方針あたりに、反映されるといいなと思っての意見です。

実は今、留学生の専門学校の学生に関わって、ここに、「時代変化に対応」ってあるんですけども、これって、さっき言った外国籍の皆さんにも対応かなと。でも一つも外国籍という言葉がないなと。評価の中にはあったんですけども、これはどこに反映されるのってこの文言は、あるのかなということで、希望です。どこかで、この外国籍とか、きちんとこの人たちが安心して相談に行けるというふうな文言が一つあれば安心かなと思います。留学生も来て、ここで就職して、結婚して子供ができてっていう、それがあるといいですね。で、この間私も話したら、おうちの中では、自分の母国を、子供は保育園に行ったら、日本語を(話す)。だから言葉が遅いっていう話をしてるので、はたまたこの子が小学校入ったらどうなるんだろうって、ふと思ったもんですから、こころで時代変化の対応可能というのは、こういう人たちも含めて欲しいなということを思ってます。

●今回新たなキーワードの例として、DE&I、ダイバーシティー・エクイティ&インクルージョンっていう、片仮名用語なんですけれども。外国籍の方とかも障害を持ってる方とかも含めた意味も込められているので、実践計画の中ではその外国籍の方や障がい者の方っていうワードは入れ込む予定にはなっています。

○新たなキーワードのところにリカレントとリスクリングってのがあって、素直にこれイメージするとかかなり事業者を巻き込まないといけない、と思うんですね。資料 5 はそれに当たるものがあまりないので、全く新しいところかなと思うんですけど、どのように事業者巻き込んでいくか、もしイメージでもあればちょっとお伺いしたいですし、何かそこで意見が言えるようであれば、言いたいと思います。

●経済観光部の商工農水課の方が所管しまして、こういったリカレント教育、リスクリングに関する事業を

推進し始めていると聞いていますので、商工農水課を通して事業を計画に盛り込むということを想定しています。

○これは、我々専門学協会は沖縄県内 45 個ありますけどね。

これも全国の方針の中にはもう明確なですね、リカレント、リスキリングと、今言った留学生の受け入れとか、こういったのがもう明確に上がってて、専門学校もリカレントリスキリングの話がそこに来るんですね。あとここに市までどうなるかわかりませんが、もうそれがもう次の動きとして、専門学校動かんといけんってのが中央から上がってきてるんですね。

○二つ、やっていただきたいことがあります。一つは私自身が那覇市の教育委員会さんの後援をいただいて、キッズマネースクールという金融教育をやらせていただいております。お金を求めるっていうのは、日本人的にはちょっと卑しいみたいなどころがあるんですけど、どう考えてもお金は必要なので。自分も親になって、子どもたちに教育は平等でやって欲しいなって思って、キッズマネースクールというのをやらせていただいているんですけども。教育委員会さんの後援をいただいた理由というのが、学校にチラシを配るための許可をいただくため。那覇市だけじゃなくて各市町村でいただいているんですけども、なぜそれをやったかという、ネットでこういったキッズマネースクールやりますって言ったら、情報を取りに来る親御さんだけが申し込みをして、本当に伝えたい、貧困というか、そういった世帯には届かないんですよ。なので、入口を平等にするために、学校でまず配ってくださいっていうふうにやるんですけども、そういったことをしても、実際参加される方たちって、実はある程度知識を持ってる方で、両親がしっかりいて、困ってない方たちがほぼほぼ参加される。リテラシーがむしろ高い方たちが参加されていて、結構困ってないのかなっていう。なのでそこも、学校としてっていうか、市として、行政としても、もう本当に、日本ぐらいで、先進国でこの金融教育はされてないの。やっぱりお金を稼ぐって考えたときに、日本人は残業したり副業したりとか、何とかして、労働でお金をふやすんですけど、外国の場合はお金を働いてもらうっていうのが当たり前で、銀行に預けるなんてナンセンス、投資でふやせばいいじゃないっていうのがあって。やっと日本でも去年、一昨年ぐらいから高校生の時、家庭科の授業で投資の多分事業も始まったと思うんですけども、今本当にいろんな情報が子供たちに youtube とかネットでも入ってきて、それがもう、どれが正しい情報かわからない。で、それを聞いて判断できる親も、実は教育委員会だったり教員の方たちでもなかなか難しいという現状があるので、ここはもう県全体としてもこの貧困をなくすためにももっと強化していただきたい。行政で難しい部分があるものであれば、民間の経済団体と連携して、そういった教育もどんどん取り入れて欲しいなっていうのがまず一つ、この金融教育。

もう一つやっていただきたいのが、この第 2 次（計画）でもあった「うちなーぐち」の部分なんですけれども、評価としては「達成」している。ただ、内容を見ると 4 歳から 76 歳までの受講生約 35 人。これも、この 35 人は多分、情報っていうか、興味があるからそもそも参加してる形なので、満足度ももちろん高いと思うんです。ではなくて、せっかく沖縄のうちなーぐちという文化が、昔は内々使うなんていう時代もあったとは思いうんですけども、でもやっぱりこれがなくなるのは寂しいですし、今使える方々っていうのが本当に少なくなってきたけど、まだいらっしゃるこの状態で、何とかつなぐ努力を、ここも行政の力を駆使してできないのかなと。35 人の興味のある方たちが対象で「達成」しました、ではなくて、それこそ小学校の子供たちに、当たり前こういった事業も取り組みとして入れていただけたらありがたいなというふうと思うので、ぜひこの金融教育と、うちなーぐちの文化を残すほうの教育というのを入れていただけたらありがたいなというふうに思います。

●今日、委員の中でご欠席の方から、第 3 次に向けてのご意見がメールでちょっと届いてたので少しそれを共有させていただければと思っております。

ご専門が福祉という部分もございまして、今回那覇市の推進計画の中で、もう少し福祉との連携があると

良いのかなというふうに感じていますと。公民館で行っている活動の講座等の中には、地域の福祉事業所と連動したものであったりとか、あとは特別支援学校と地域を結ぶ。というようなこともあるのではないかと。なので地域福祉活動と、相乗りしたようなものや、また特別支援学校を卒業した後の生涯学習の可能性、そういったところ、先ほど他の委員からもありましたように、多様性という部分での、障がいのある方々への視点という部分も、次期計画の中に盛り込むという可能性を示していただきたいというようなご提案というかご連絡がございましたので、皆さんと共有させていただきたいと思います。